

予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

1 日 時 令和7年7月2日（水曜日）

午前9時30分～午前10時08分

2 場 所 委員会室

3 出席委員 戎 屋 昭 彦 委 員 長 石 井 和 幸 副委員長
竹 岡 昌 治 委 員 山 中 佳 子 委 員
三 好 睦 子 委 員 岡 山 隆 委 員
秋 枝 秀 稔 委 員 杉 山 武 志 委 員
村 田 弘 司 委 員 藤 井 敏 通 委 員
末 永 義 美 委 員 山 下 安 憲 委 員
井 上 敬 委 員 竹 下 駿 委 員
三 善 庸 平 委 員

4 欠席委員 な し

5 委員外出席議員

荒 山 光 広 議 長

6 出席した事務局職員

岡 崎 基 代 議会事務局長 寺 埜 真 輔 議会事務局議事調査班長
中 島 高 輝 議会事務局庶務班長

7 説明のため出席した者の職氏名

志 賀 雅 彦 副 市 長 南 順 子 教 育 長
佐々木 昭 治 総務企画部長 佐々木 靖 司 市民福祉部長
市 村 祥 二 建設農林部長 河 村 充 展 観光商工部長
梶 山 英 樹 総務企画部理事 佃 侑 裕 地方創生監
千々松 雅 幸 教育委員会事務局長 落 合 浩 志 総務企画部次長
中 村 壽 志 建設農林部次長 山 田 豊 正 行政経営課長
西 村 兆 充 福 祉 課 長 佐 伯 瑞 絵 子育て支援課長
岩 崎 敏 行 建設農林課長 竹 田 龍 也 観光政策課長
岡 崎 輝 義 商工労働課長 田 中 美 香 教育総務課長
野 村 一 守 生涯学習スポーツ推進課長

8 会議の次第は次のとおりである。

午前 9 時30分開会

○委員長（戎屋昭彦君） おはようございます。ただいまより、予算決算委員会を開会します。

議長、報告事項等などありましたらお願いします。

○議長（荒山光広君） 特にありません。よろしくお願いします。

○委員長（戎屋昭彦君） さきの本会議において、本委員会に付託された市長提出議案 1 件について審査しますので、御協力願います。

執行部及び委員の皆さんには、簡潔な説明と質疑に努められますようお願いいたします。

それでは、審査を始めます。

議案第52号令和 7 年度美祢市一般会計補正予算（第 2 号）を議題とします。執行部から説明を求めます。山田行政経営課長。

○行政経営課長（山田豊正君） それでは御説明します。

1 ページを御覧ください。

第 1 条歳入歳出予算の補正についてですが、このたびの補正は、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ7,701万3,000円を追加し、総額を177億2,539万7,000円とするものでございます。

それでは、補正予算の内容について、特定財源の内容を含め、歳出から御説明します。

12ページ、13ページを御覧ください。

まず、5 目財産管理費で財源更正を行っております。

これは、当初予算に計上した普通財産管理事業において、旧赤郷小学校校舎に係る土地建物貸付収入の追加に伴い、賃借料の一部を充当することにより、一般財源から財産収入へ財源更正をするものです。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 佃地方創生監。

○地方創生監（佃 侑祐君） 続きまして、10目活性化対策費デスティネーションキャンペーン関連企業——企画等事業費を660万円追加しています。

本事業は、本年10月からプレ、本番、アフターの 3 年間で実施されるJR西日本の観光キャンペーン、山口デスティネーションキャンペーンの参加を契機に、単なる

観光誘客で終わらず、市内地場産品のPRや消費拡大につなげられるよう、観光客にとっての交通要所となる新幹線駅での美祢市産品の販売促進やそれからその他の販路開拓等を目的として実施する事業になります。

本事業は、新たな地方経済生活環境創生交付金を活用した事業であり、本年度は、商工労働課や六次産業振興推進室と連携し、意欲ある市内事業者を公募した後、観光客を含む市外・県外からの来訪者にとってもらいやすい商品とすべく、パッケージ等のデザインの見直しをはじめとしたデザイン経営や商品開発、販路開拓等の支援を実施する予定となっております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 西村福祉課長。

○福祉課長（西村兆充君） 続きまして、民生費を御説明します。

1 目社会福祉総務費、025定額減税不足（不足額給付）給付金事業において5,712万5,000円を追加しています。

これは、国の経済対策である新たな経済に向けた給付金・定額減税一体措置において、令和6年度に定額減税を行っております。この際、定額減税し切れないと見込まれる方に対しては、調整給付金を支給しております。この当初の支給額に不足が生じる場合に追加給付を行うため、所要の経費を追加するものです。

歳出の主なものとしまして、定額減税補足（不足額）給付金として5,141万円、電算システム導入委託料として313万5,000円を計上しています。

対象者数は、約1,900人を見込んでおります。

財源については、国庫支出金として、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金5,712万5,000円を追加しています。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 佐伯子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐伯瑞絵君） 続きまして、14ページ、15ページを御覧ください。

1 目児童福祉総務費、説明欄052保育所等におけるICT化推進等事業におきまして97万5,000円を追加しております。

これは、市内の私立保育園において、保育士等の業務負担の軽減を図り働きやすい環境を整備するため、保育の周辺業務や補助業務に係るICT等を活用した業務システムを導入される費用の一部を補助するものです。

財源につきましては、歳入において、国庫支出金65万円を追加しております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 西村福祉課長。

○福祉課長（西村兆充君） 1 目生活保護総務費、002低所得者福祉事業において162万8,000円を追加しています。

これは、令和7年度、生活扶助基準の見直し等に伴う生活保護システムの改修に係る業務委託料です。

財源については、国庫支出金として、生活困窮者就労準備支援事業費等補助金81万4,000円を追加しています。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 岩崎農林課長。

○農林課長（岩崎敏行君） 続きまして、3 目農業振興費、説明欄008新規就農者支援対策事業について、新規就農者経営開始資金及び研修生支援補助金それぞれ150万円、合わせて300万円を追加しております。

新規就農者、経営開始資金については、このたび対象者1名の就農形態、経営作物品目及び将来の農業経営の構想などを記載した就農計画の内容がまとまったことに伴うものです。

その下、研修生支援補助金については、対象者1名が当初予算編成後に令和7年4月から1年間、山口県農林総合技術センターで開催される山口就農支援塾の担い手養成研修の施行に伴うものです。

なお、特定財源として、県支出金225万円を見込んでいます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 田中教育総務課長。

○教育総務課長（田中美香君） それでは、説明いたします。

3 目学校施設整備費、001小学校施設整備事業として507万2,000円を追加しております。具体には、業務委託料を304万1,000円追加しております。

これは、旧嘉万小学校屋内運動場等で確認された高濃度PCBを最終処理期限である本年度内に処分するためのものであります。

次に、施設整備工事を130万1,000円追加しております。

これは、県が実施する麦川川広域河川改修工事に伴い、撤去された麦川小のフェ

ンスを再び設置するためのものです。

なお、令和6年度に、県から補償金130万3,432円を頂いております。

次に、学校教育施設整備基金元本積立金を73万円追加しております。

これは、旧赤郷小学校の建物を今年度から有償で貸与しておりますが、建築から60年間は補助金上処分に制限がかかっており、有償で貸与する場合、建設時に交付された補助金は返還の対象となるものです。

しかしながら、文部科学省が示した計算式によって算出した金額を学校教育施設整備基金に繰り入れることにより、国庫への納付に変えることができることから、積立金として計上するものです。

なお、特定財源として、旧赤郷小学校の土地及び建物貸付収入279万7,000円の一部、73万円を充当しております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 野村生涯学習スポーツ推進課長。

○生涯学習スポーツ推進課長（野村一守君） 16ページを御覧ください。

2目公民館費、公民館管理運営事業で261万3,000円を追加しております。

これは、社会教育施設等に設置されておりました高濃度PCBを使用した蛍光灯の安定器を最終処分期限である今年度末までに処分する必要があるため、その経費を追加するものです。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 山田行政経営課長。

○行政経営課長（山田豊正君） 続いて、歳入を御説明いたします。

なお、歳出の説明時に、一部特定財源について御説明いたしましたので、抜粋して御説明いたします。

10ページ、11ページを御覧ください。

基金繰入金では、1目財政調整基金繰入金において、歳入歳出差引の一般財源として1,007万7,000円を追加しております。

説明は以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はありませんか。三善庸平委員。

○委員（三善庸平君） 13ページなんですけれども、デスティネーションキャンペー

ン関連企画等活動事業について質問させていただきます。

こちら、これが事業採択されれば、公募はいつから実施予定だったりとかが、いつ頃から商品開発を進めていくとか、そういったスケジュール感等決まっているのであればお聞かせください。

○委員長（戎屋昭彦君） 佃地方創生監。

○地方創生監（佃 侑祐君） 三善委員の御質問にお答えいたします。

こちら、採択というような今御質問がございましたが、既に国費のほうは採択いただいております。事業の開始そのものについては、こちらの予算がお認めいただけましたら速やかに着手する予定となっております。

その上で、スケジュール感としましては、公募については速やかに開始いたしまして、その上で、冬までに商品化企画開発等の支援を行い、この2月頃には、一度試行的に山口県内の新幹線駅等において参加いただいた有志の事業者さん等の商品を置けるように進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ございませんか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、三善委員が質問されたんですが、もうちょっと詳しく。

例えば、商品開発して商品を売るという場合の公募されるんですけども、手数料だとかそういうのは皆お分かりだと思うんですね。もう少し詳しく説明できませんかね。

○委員長（戎屋昭彦君） 佃地方創生監。

○地方創生監（佃 侑祐君） 竹岡委員の質問に、追加で詳細にお答えしたいと思います。

本事業については、事業名にあるように、山口デスティネーションキャンペーンを契機とした事業としておりまして、こちら実際具体的には、JR西日本の行っている「てみてプロジェクト」というものを活用することを見込んでおります。

で、こちらのとみてプロジェクトというものを活用した場合においては、山口県内他市さんの事例ですと岩国市さんなどに事例がございますが、事業者さん側には手数料は頂かずに、5社から20社さんのほうを最大でマックスで参加いただけるように事業を設計しております。なので、事業者さん側には負担はございませんが、一定程度、新幹線の駅で飲食等を販売するのであれば衛生基準等を満たす必要がご

ざいますので、そういった基準は満たしていただく必要はございます。

こちらの基準の具体的な部分については、こういった商品を出したいかというようなものに応じてちょっと差が生じてくるものになってきますので、この予算が通過でき次第、事業者等と調整していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） その他、藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 13ページの社会福祉総務費っていうか、定額減税補足給付金ということ言われてますけれども、まず、この定額減税制度そのものがどういうものだったかっていうところもちょうと十分な知識がないんで、申し訳ないんですけども、不足額が生じたと、で、それを給付するんだということですけど、なぜ不足額が生じるんですか、その理由をちょっと確認したいのと。

もう1つは、電算システム導入委託料ということで300万計上されてますけれども、このシステムっていうのは、この不足分を給付するための——だけの電算システムということなんでしょうか。

この2点、ちょっとお尋ねをいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） 西村福祉課長。

○福祉課長（西村兆充君） 御質問にお答えします。

まず、定額減税についてということですが、昨年——令和5年ですね、令和5年に国のほうで、デフレ完全脱却のための総合経済対策というのが閣議決定されまして、物価高騰対策として、住民税非課税世帯への給付や定額減税を行うことが盛り込まれております。

この定額減税というのは、令和6年度住民税非課税世帯に対して、所得税から3万円、住民税から1万円ほど減税をするものであります。

で、昨年度、調整給付金を支給しておりますが、これは、令和5年の実績を基にした推計値を用いて算出をしております。で、その後、確定申告等で、令和6年分所得税及び定額減税の実績額が確定した後に、本来給付すべき額と当初給付額との間で差額が生じた場合に対象となるものでございます。

2点目の御質問についてですが、システムについては、この事業に係る——このシステムに係る事業の導入費になります。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 今の説明を聞くと、要は当初予定してたものよりも実際の所得が少なかったから、その差額について、（5,712万5,000円）追加でお支払いしますよというふうな理解でよろしいんですね。

○委員長（戎屋昭彦君） 西村福祉課長。

○福祉課長（西村兆充君） 質問にお答えします。

今回定額減税、今回の調整給付金の支給パターンが2種類ございます。

まず、第1点目のパターンは、先ほど申しました定額減税しきれないと見込まれた額で——見込まれた方で、当初の給付額に不足額が生じた方になります。

具体的な例を挙げますと、先ほど言われたように、収入が少なくなったという方、給与が減少したであるとか扶養親族が増えたとか、住宅ローン減税や寄附控除があった場合などが対象になります。この対象者は約1,300人となります。

もう1つ、2つ目のパターンがございます。

2つ目のパターンは、定額減税やこれまでの低所得者——低所得世帯向け給付等のいずれにも対象とならなかった方になります。

該当の可能性のある方は、本人として——本人としても定額減税の対象外となっている方で、税制度上の扶養親族等の対象外となる青色事業専従者、事業専従者白色、合計所得が48万円を超える方などが対象になります。この対象者は約570名を見込んでおります。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。その他質疑ございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 14、15ページ、教育費で、小学校施設整備事業で507万2,000円出てます。ちょっと説明が簡潔にあり過ぎて、もう少し詳しく説明していただきたいと思うんですけど、土壤にPCBが含まれていたということで、液体の——PCBじゃなかった。違う……。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員、質問して。直接じゃなくて質問して、執行部のほうから回答聞きたいと思います。聞く質問をはっきりお願いします。

○委員（岡山 隆君） だから、基本的には説明があんまり十分なかったですから、PCBの処理にお金がかかったということですよ。そのところ、どの場所があったか、ちょっとその辺詳しく説明してもらえますかね。

○委員長（戎屋昭彦君） 田中教育総務課長。

○教育総務課長（田中美香君） まず、PCB——高濃度PCBの廃棄物ですが、こちらは、旧嘉万小学校の屋内運動場の天井に設置しております蛍光灯の安定器の中に高濃度のPCBが含まれているということで、そちらのほうの処理をするために計上いたしました。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 蛍光灯に、このPCBの高濃度が使われていたということで、この処理に五百——（発言する者あり）トータルでね。304万1,000円付いてますけれども、これだけのものを処理すると、相当な多くの蛍光灯等をどの程度処理されたのか、この辺説明できますか。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員、蛍光灯じゃなくて、蛍光灯を管理してる安定器の辺りにPCBが入ってるということ。

○委員（岡山 隆君） 安定器にね。これ、何ていうか、有機——液体の有機溶剤でありますので、やっぱり発がん性物質でもあるし、この辺も発電機ですから、絶縁の液体として大体ついてるわけですよ、このPCB使ってる。だから、その辺の領地の嘉万小学校だけで処理するのに、これだけの経費がかかったということですか。

○委員長（戎屋昭彦君） 田中教育総務課長。

○教育総務課長（田中美香君） PCBの処理廃棄物ですけども、私どもが今現在計上している金額につきましては、嘉万小学校の蛍光灯についてる安定器の5個——5つ分に関しての処分費でございます。

処分に関しましては、処分の単価に重量をかけた処分費と処理施設まで運搬する運搬費を計上しております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 量的にはですね、このPCBを有機溶剤、大体どのぐらいの量なのか。結構高額なお金がかかってますので、それについて分かれば、大体どのぐらいの量があったのか、説明できますかね。

○委員長（戎屋昭彦君） 田中教育総務課長。

○教育総務課長（田中美香君） 嘉万小学校分につきましては、大体65キロ——すみ

ません。1器当たりが5キロですので、5個分で25キロになります。

○委員長（戎屋昭彦君） ちょっと待って。さっき、今、1個が5キロ……。

○教育総務課長（田中美香君） 1個当たり5キロ、大体5キロです。

○委員長（戎屋昭彦君） さっき5個で……。

○教育総務課長（田中美香君） 5キロで5つ分。すみません。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 状況分かりました。

25キロでしたかね。やっぱり物を動かすと相当なお金かかりますので、三百一万——304万1,000円少し高いかなと思って、僅かな量だろうと思っておりましたけれども、25キロの量で、こういった予算がついたということは一応理解しましたので、
以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ありますか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） くだいようですけど、もう一度お尋ねします。

三善委員がスケジュール感の話をしたと思うんですが、このデスティネーションのこの事業は単年度なのか。何年度かけるのか、その辺が全く見えない——見えてないんですよ。だから、その辺もう1回説明できませんか。

○委員長（戎屋昭彦君） 佃地方創生監。

○地方創生監（佃 侑祐君） 竹岡委員の御質問にお答えいたします。

この山口デスティネーションキャンペーンについては、令和7年度、今年度からプレが始まりまして、来年が本番で、再来年がアフターというところになっております。なので、事業計画といたしましては、今回の第2世代地方創生交付金を獲得するにおいては3年間の計画としております。

今年度については、先ほどの説明で申し上げましたように、主に六次産業振興推進室や商工労働課と連携しながら、市内事業者さんの商品企画開発やデザインの改良等をメインとした事業設計としておりまして、来年度については、山口デスティネーションキャンペーンの本番というところで、販路開拓や販売促進等をメインとした構成として考えております。

最終年度のアフターの部分については、こういったものが一過性で終わってしまうと市内消費につながりませんし、新幹線の駅だけではなくて、最終的には美祢市の魅力的な地場産品であるとか、市内の事業者さんがつくられた魅力的な商品とい

うものが駅のお土産という場だけではなくて、百貨店であったりとか他県のそういった売場に売ってもらえるように、商品の定着というものを事業としては設計しております。

なので、この３年度の計画において、連携する部局であったりとか、市内の関係部署というものも変わってきますが、今年度については、主に商品企画開発やデザイン改良とそういったものを中心に行う予定としております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。その他質疑ございませんか。藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 農業費のところですね、新規就農者支援と１名ほど新規就農者があったというお話ですね。５０名とかなると問題だろうと思うんですけども。やっぱり農業をやるというか、農業を何とかしたいなという立場から、１人でも新規に就農していただくと非常にありがたいと。

そこで、質問なんですけれども、この１名、先ほどの説明では、具体的にどういうふうなことをやるかという事業計画がまとまったので、一応この支援ということでやるというお話でした。

まず、差し支えない範囲で結構なんですけれども、今回の新規就農者はどのような——何歳ぐらいの人で、具体的にどのような事業をやろうとされているのかとか、その辺分かる範囲で結構なんですけれども、お示し願えますでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 岩崎農林課長。

○農林課長（岩崎敏行君） ただいまの御質問にお答えいたします。

この方につきましては、４０代の男性の方でございます。

主な経営品目としましては、栗、里芋、タケノコ、あと食用林産物で栗等を生産するということで、今、経営を予定をされてるところでございます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 藤井委員。

○委員（藤井敏通君） ということは、住所っていうか、場所は厚保地区ですか。

○委員長（戎屋昭彦君） 岩崎農林課長。

○農林課長（岩崎敏行君） そうです。厚保地区になります。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。その他ございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 藤井委員にちょっと関連するんですが、16ページの008のお米の農林費の件ですけど、今、本当にお米不足で、新規農業者の支援が本当に喫緊の課題なので……。 （発言する者あり） 16ページじゃなかったっけ。

○委員長（戎屋昭彦君） 15ページです。

○委員（三好睦子君） すみません。それで——ちょっとすみません、ページが違ったようで。

それで、お米不足、本当に新規農業者の支援が本当に喫緊の課題だと思いますが、先ほどの説明で、1名ともう1人のたったの2名ということなんですけれど、この周知とかPRの方法とか、これ全国的な、それこそ今ネット使ったりなんなりいろいろと皆さん寄せる手段はいろいろあるので、その周知とPRの方法について、どのようにされたのかお尋ねします。

それから、全国的にやられるのかどうかもお尋ねします。

○委員長（戎屋昭彦君） 三好委員、PR——この予算についての補正予算ですから、PR……。三好委員。

○委員（三好睦子君） すみません、私よく聞いてなかったみたいで。（発言する者あり） いえいえ、訂正はしませんけれど。栗とか分かりますけど、今の本当に……。そしたら意見のときに言います。

○委員長（戎屋昭彦君） 今の質疑、訂正されますか。

○委員（三好睦子君） 訂正でいいです。意見のときに言います。

○委員長（戎屋昭彦君） その他。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） お尋ねいたします。

保育所の関係でお尋ねしたいんですけど、業務システム導入補助ということで、国が半額——3分の2ぐらいですか、あとの残りの30万ぐらいっていうのは、市が補助をするわけですか。それと、どういうシステムなんですか。もう大体入ってるような気がするんですけど。

それともう1点、先ほどからPCBの話が出るんですけど、これは高濃度のPCBの処理期限過ぎてるんじゃないですか。

2点お尋ねいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） 質問がちょっと聞き取れなかったんで——すみません、聞き取れなかったんで。

○委員（秋枝秀稔君） 教育費で、PCBの関係で、処理期限はもう過ぎてるような気がするんですが。低濃度じゃないんですか、違うんですか。

○委員長（戎屋昭彦君） 田中教育総務課長。

○教育総務課長（田中美香君） 高濃度PCB廃棄物の処理期限につきましては、全国的にどんどん閉鎖されていってですね、最終的に残っているのが室蘭のほうにございまして、そこが残り1つの処理の箇所になりますが、今年度末までは、そこで処理ができるということでございます。

低濃度はまだ期限内であります。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） それともう1点。佐伯子育て支援課長。

○子育て支援課長（佐伯瑞絵君） ICT化推進事業につきましては、保育計画や記録、園児の登園・降園管理記録、保護者の連絡などをICT化するスマホやタブレットで入力するということで、それを通じて保育士の業務負担を軽減し、よりお子様に手をかけられる保育士の保育の質を向上させることを目的とした事業であります。

現在、このシステムを入れられてるのは、このたび私立保育園1園ほど新たに導入され、もう1つ、認定こども園さんが1園ほど導入されていらっしゃいます。

その他の保育園については、やはり子どもさんの人数等もありまして、まだ導入のほうは検討されていない状況です。

補助割合につきましては、まず、この事業の補助基準額というのが130万円が上限額となっています。そのうち国が2分の1、そして市が4分の1、残りの4分の1は事業者のほうで支払われるようになっておりますので、こちら市のほうで予算計上してますのは、市と国が補助する4分の3、97万5,000円を計上している状況です。

○委員長（戎屋昭彦君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 17ページですけど、これ公民館費なんですけれど、電池の処分ということでしたけれど、これ費用が261万8,000円でしたけれど、これって1年分のものですか、それとも何年分がたまっていたのでしょうか、お尋ねします。

○委員長（戎屋昭彦君） 野村生涯学習スポーツ推進課長。

○生涯学習スポーツ推進課長（野村一守君） こちらも先ほど教育総務課長のほうから説明をしましたとおり、高濃度PCBの処理に関する経費でございます。

以上です。

○委員（三好睦子君） 分かりました。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

次に、本案に対する討論を行います。御意見はありませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） この補正予算には賛成ですけれど、この内容については賛成ですが、今、本当に予算組んでいただくときに、今はお米不足とかありまして、新規農業者の支援っていうのは本当に喫緊の課題ですので、そういった内容も次の補正のときであれば、またこういうことも考えていただきたいと思います。

それから、これ9月の一般質問にしようかなと思ったんですけど、デスティネーションっていうことの内容ですけれど、これは、今回は商品の開発でしたけれど、この観光業界において、この事業というのは本当に範囲が広くて重要性があって、これ、今後とも自然の山とか海とか、美祢市の大事な自然環境を楽しむこととかいろいろな文化とか歴史とか、こういう方面にも広げていただきたいことを思いまして、意見を述べて、この議案には賛成いたします。

○委員長（戎屋昭彦君） その他御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第52号を採決します。本案について、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第52号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託された議案1件について審査を終了しました。

その他、委員の皆さんから所管事項について何かありましたら発言をお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） ないようでしたら、これにて、本委員会を閉会します。お疲れさまでした。

午前10時08分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年7月2日

予算決算委員長